

## 巻頭言 「現在の意味」

宇野 元

雨の日。仕事が捗らない折に、ステレオのボタンを押して、昨晚入れたままのバッハのモテット集から、第6番をかけました。

主を賛美せよ、すべての異邦人よ。

主をほめよ、すべての民よ。

なぜなら、主の恵みと真実が、

永遠に我らの上にあるのだから。

ハレルヤ！

ふと思いついて、それから、シューベルトのピアノ・ソナタを聴きました。手に取った CD ケースを眺めると、名前の横に 1797-1828 と簡潔に記されていました。31年の人生。明るい日に森の木漏れ日を浴びて歩くような曲が、親しく語りかけてくれます。

バッハから、シューベルト。また、私のなかでビートルズが重なります。あらためて聴き直すと、前の印象が訂正されるどころや、新しい発見があります。活きのいい掛け声や、即興的な歓声や、大騒ぎは、たんなる味付け・工夫ではなく、彼らの音楽の大事な部分であると思います。人生の若い季節の、一回限りの花が記録されていますね。一方、歌の内容をたどると、知恵ある言葉にびっくりさせられます。すこしだけ思いつくままに。

「失敗を重ねながら、ぼくらは学んでゆくのだよ」

「今はそっとしておこう。必ず、答えが与えられる」

「なあジュード、世界を一人で背負うなよ」

なぜ彼らの曲が心に触れるのだろうか？ 答えが浮かびます。聴き手の人生がそこにあるから。私のことが歌われているから。

ビートルズの活動期間は、わずか10年ほど。全力で駆けた四人の青年の、半世紀まえの録音から、私の現在の意味を考えるよう促されます。——今、自分が考えることは、人類が考えることと繋がっている。ささやかな一步一步は、決して自分一人の取り組みではない。悩みにおいても、悲しみにおいても、現在・過去・未来の人々と結ばれている。だから、主の恵みと真実に依り頼んで、小さな歩みを進めることは、やりがいがある。